



人口減少対策として地方創生に尽力された前豊岡市長の中貝宗治氏のお話を伺いました。人口減少を止めることはできませんが、減少をゆるやかにするための「地方創生について」です。

地方における人口減少とは、少子化による若者の減少、若者の流出、未婚率の上昇が原因です。豊岡市には大学もなく若い人は都会に出ますが、卒業後豊岡に戻る割合が低く、特に女性はその傾向が強いです。つまり、地方は若者に選ばれず、特に女性に選ばれないというのが現実です。そこで、中貝氏は人口規模は小さくても世界の人々から尊敬され、尊重される豊岡市を目指しました。資本力や大きさ、高さ、速さは都会には勝てませんが、地域の自然、歴史、伝統、文化に深く根ざし世界で輝き、世界に通用するローカルを磨く計画をたて、実行されました。

- ①環境都市豊岡エコバリーの創造(コウノトリも住める豊かな環境を創る)
- ②受け継いできたものを守り、育て、引き継ぐ(城崎温泉へのお客様を世界から)
- ③深さを持った演劇の町芸術文化観光専門職大学創設。平田オリザ学長を迎え若者の集う町へ・演劇を義務教育へ展開。自分とは異なる人物を演じることで相手に共感することができ、コミュニケーション能力もアップ
- ④シエンダーギャップ(社会的文化的に作り上げられた知らず知らずの男女格差)の解消

*例えばアメリカのオーケストラでブラインド(目隠し)オーディションにしたところ女性演奏家は5%→35%になった。

*海外で働いている日本人研究者24000人の内、女性は60%、日本国内の女性研究者は10%(2014)

地域の寛容性(女性の生き方、家族の在り方、若者信頼、少数派の包摂、個人主義、変化の受容の6領域を高めることで、地元に住む人の離脱意向を抑え、東京圏へ出た若者のUターン意向を高めるなど、統計的に優位な効果が期待されます。文化水準の満足度は寛容性の高さと密接に関係し、文化芸術の経験が地域社会の寛容性を高める効果があるとのこと。

「2023年日本のシエンダーギャップ指数は146カ国中125位、危機感を共有してください」中貝氏の結びの言葉です。

10月8日(日) いどばた会

11月行事予定

- 23(木) 食事会
- 26(日) 秋まつり



お誕生日 おめでとうございます

- A 様 (91歳)
- B 様 (88歳)
- C 様 (70歳)



《お詫びとお知らせ》

コロナ感染者発生に伴い、入居者の皆様には大変ご不自由をおかけし、申し訳ございませんでした。

又、家族様にも面会中止等、ご協力、ご心配をおかけ致しました事をお詫び致します。

11月20日頃に終息の予定です。